

説林



幼稚園の立場と其の務

森岡常藏

わたしは、数日前中村さんから何か話をせよと云ふ御話で、其時に御請けは致して置きましたが、忙しいと云へは誰も遣ふ言葉でありませんが、眞實に忙しいと云ふ事もありませんし、又私は餘り幼稚園の事に就ては材料を有つて居らぬのであります、日本でも餘り幼稚園を參觀した事もありませんが、西洋へ行つても餘り澤山見た事はありません。殊

に或る部分は私が御話をするところではなく皆さんから御聞きをせねばならぬことであると思つて居るのであります、又此れまで皆さんから段々御話があつた後でありますから私が言ふ位な事は既に御話になつて居らうと思つて甚だ不安心の儘出て来た事でありませぬ、或は屢々御聞きになつた後かも知らぬが少し御話をして、幾分なりと皆さんの御参考になれば幸と思ふて居ります。ドウ云ふ事を御話しやうかと云ふことは前から極めて居りませぬで、漸く少し前に此話をしやうと云ふことを極めたやうな事で、幼稚園の立場は如何なるものであるかと云ふ事を、歐羅巴の二三の學者の説、それから私が見ました所で、幼稚園に如何なる事を務めて居るか、其の二點に就て簡單にお話して置きたいと思ひます。

私は幼稚園は餘り見ませぬでしたが私の長く居りましたエナで一つ二つ見た事がある、又伯林でも亦二つ三つ幼稚園を見た事があります、巴里でも一二ヶ所見て參りましたから、それでドウ云ふ事をして居ると云ふ事を言ふは獨斷かも知れぬが少し御話をしたいと思ひます。其の前に言ふとはフレーベルが幼稚園を拵へた趣意は皆さん御承知の事でありまして、其のフレーベルの哲學思想と云はうか教育に對する根底の考へに就て昔から能く人が言ふです、一の神秘な考へがあつてそれから出て居るのである。フレーベルは本當の哲學者でないと言ふことを人が言ひますが、こゝに持つて居る本にもありませんが獨逸のババリヤのミュンヘンの哲學の教授フローンヤンメルと云ふ人があるが、此の人はフレーベルの根底の考へから一步深

く進んで研究してその哲學の根底を委しく調べたのであつて此の本は其研究とフレーベルの考へとを比較した本であります、其の事は今は申し述べぬでありますが只フレーベルの根底の考へを詰らぬ様に言ふけれども、一方からそれを深く研究して居る人もあると云ふことを言つて置きたいと思ふのであります、幼稚園の職務は何であると云ふことは言ふまでもなく、學校に這入る前の子供の家庭教育を助けそれを補ふて身体を規則正しく練習し、精神を自然に適ふて居る陶冶をするが趣意であると思ふ。それはフレーベルの考へで生れて來たものであつた………詳しく言へばフレーベルから出たと云ふ譯ではありません、それは言はぬでも御承知のコメニウスの説いた中に母學校と云ふ事がある。………フレーベルは兎も角も珍ら

しい考へを出したのである。其のフレールベルの考へは獨逸で餘り流行せぬで、却て外國の英吉利とか亞米利加とか佛蘭西に榮えて居る。今でも其の現狀でありまして、獨りフレールベル時代からのみならず今でもそうで、獨逸は佛蘭西や英吉利に比ぶれば盛んでない。それはドウ云ふもので本國即獨逸に其の考へが盛長せぬかと云ふことは御承知でもありませうが簡單に申すと、立場を話す道行きでありますから申しますが、それは千八百五十五年八月七日であるが普西亞の文部大臣のラウメルと云ふ人が訓令で幼稚園を禁じて仕舞ふた。其の考へは幼稚園はフレールベルの社會主義、フレールベルが社會主義を有つて居て幼稚園は其の組織の一部である、其のフレールベルの社會主義が無神論であつて、無神論に子供を導く様になるから危

險なものであるから禁ずると云ふことを訓令したのである。其の訓令に就て或人はフレールベルの考へが宗教に反して居る事を説明する人が無いのでないが、想ふにラウメルと云ふ大臣の誤解したから起つたのである。其の時分社會黨のカールフレールベルと云ふ人があつて、其の人は社會黨であつた、此の幼稚園を立てましたはフリードリッヒフレールベルである。其の人と社會黨のカール、フレールベルと一緒にしたもので、其の誤解から來たものである。併しそれは先づ其の大臣がさう考へたが間違であるのでありますが、大臣の訓令になつた者であるから一大打撃を被つた譯であります其後に實際の方面から研究してフレールベルの立てた幼稚園に就て起つた非難が二つあるのである。それは幼稚園の唱歌、始めて出來た時分の唱歌が

非詩歌的である、詩的でない、又子供らしくない唱歌である。それと結び付けて幼稚園と云ふものは子供の取扱ひ方が餘り人工的になつて居る、餘り細工を仕過ぎる。餘り種々の細かい方法で不自然な事をやるものであると云ふ非難が獨逸に起つたのである。それは幼稚園の起つた初めは實際さういふ事があつたのであつて、保育の任に當つて居る人がさういふ風に人工的にやつた、不自然的にやつたと云ふ事があるのである。小學校でやる様に保育したのである。我國でも少し前までは我國の幼稚園に對して教育者がさういふ考へを起した事があらうと思ふ、餘り不自然的に餘り人工的に走るから面白くないと云ふ考へを有つて居る人があることを信じます。それはとに角其の非難たるや幼稚園の主意の罪でない。幼稚園と學校と混

すべからずと云ふことをフレーベルは熱心に戒めて居る其の非難は保育の方法の罪であつて幼稚園の罪でない。

其の次にモウ一つ非難がある。これも幼稚園の立場から起つたもので、幼稚園の立場と云ふ所から起つたものであるが、其の非難は随分有力であらうと思ふ。家庭といふものは一切の陶冶の源になるものである。家庭は即ち第一の自然の必然の教育所であるべき筈である。幼稚園は家庭の權利を侵害して居るのである。母が殊に其の子供を育て上げて子を見るは母に若かず母ならば一番能く知つて居るから母が子供の性質を呑み込んで其の子供を育て擧ぐへきものである。幼稚園は其の家庭の權利を侵害して居る。さういふ幼稚園の起るからして父母殊に母が義務心を失ふて仕舞ふと云ふ

事になる。幼稚園のしごととは母のすへきものであつて、それを幼稚園のするのは家庭のする事をして居る様なものであると云ふ非難かござります。さて幼稚園に對して現はれた非難は此の通りでありまして、其の中にも後の方の非難は有力であると考えます。實際子供に對して母は自然の教育者であるとして云ふは否ひへからざるものである。若し幸福な家庭で母の自然の愛情に依つて、且つ母が子供を誤解することなきに依つて其母が子供を教育したならば一番自然で一番良好なるものに相違ないさういふものならば、幼稚園の設立を必要とせずと云ふ理由が立つてあらうと思ふ。けれども何れの家庭も幸福な境遇にあると云ふことは出来ぬ特に父母が共に職業に従事して居るとか、或は勞働に従事して居るとか云ふ様なことであつて、

子供を育成陶冶する爲め骨を折る時間のない時、父母は稼ぎに出で子供は棄てゝあると云ふ時は幼稚園設立の必要を感じる事になる。其の點から言へば幼稚園は必要になる。それは眞理であらうと思ふ。其處で曾て私がシルレルと云ふ人の説を「教育」に紹介した事もありますが、それにも書いてあります。幼稚園は富豪家の子供の爲めに必要ではない。富豪家の子供が幼稚園へ行つても非難するには及ばぬが、彼等は家庭で充分世話を受けて居るのであるから、ソンの幼稚園を必要とせぬ。幼稚園の必要は村落とか貧家の子供に最も必要なのである。シルレルは獨逸の村落とか貧民の澤山居る町に幼稚園は殆んど稀れてある……獨逸は公立の幼稚園はない悉く私立である……それを嘆きさういふ貧民の多い所村落などに必要である

富豪に必要のない、其の證據としてシルレルが子供の心理研究の結果を擧げて居る。其の言ふ所に據れば二十四人はかりの子供を試験したか、それは何れも下層人民の子であるか、其の結果を見るに話の力か不充てである、「私は學校に居る」と云ふ簡單な語を教師か助けずに完全に言ひ得た者は一人もない。けれどし父母は稼ぎに出て子供は家に居る。そして子供の發達の上に世話をせぬ。故に言語か發達せぬ、又想像力に就ても意思の發表に就てもさういふ現象か現はれて居る。それを見ても貧民の子供、殊に下層の人民の子供に幼稚園を起す必要があると云ふ事を言つて居る。ジャンポールが言つた様に子供の初めの三年の經驗は後に大學に行つて三年の修業よりも學ぶ事が多い。殊に二歳から八歳までの發達は大なるもので、其の點

に於て注意を缺く事があれば少なからぬ不利益を遺すてあります。それ故にシルレルは幼稚園の立場を考へまして、今言つた様に貧民の多い町とか云ふ所に幼稚園を起すべきである、そのことにつきて佛蘭西か一番能くやつて居る。さういふ所には佛蘭西は殆んど公立で幼稚園を建て居る。それを學ぶべきであると云つて論結して居ります。今言つたは貧民の子供と云ふ事を眼中に着けたのであります、金持の子供に不必要かと云ふに金持の子供ても友達同志一所に學校に行つて保育を受ければ、其の交際の間又保母に接する間に心の發達か出来るから、それか出来れば實に結構であると言ふことは出来ます。シルレルの考へは右の通りであります。〔つゞく〕